

# 工事中のドローン利用について

## 目次

- 1.工事中のドローン利用について
- 2.ドローン利用の会場内基本ルール
- 3.ドローン利用に関する届出(万博ルール)
- 4.その他(参考情報)

## 1.工事中のドローン利用について

- ドローン利用に関しては、航空法、航空法施行規則等の関連法令や各種ガイドラインのほか、本ルールを遵守すること
- 会場敷地内は輻輳して工事が行われ、原則立ち入り禁止措置が出来ないため、航空法における飛行許可・承認手続きを施工者毎に行うこと
- 工事期間中のドローン利用については、工事中の現場管理用(定点写真)及び完成写真等に利用する空撮のみに限定すること
- 該当施設以外の撮影や撮影以外の目的(輸送など)での利用はしないこと
- ドローン利用に伴う苦情や事故、その他損害等はすべて届出者の責任で解決すること
- 博覧会協会が、ドローンを使用して運営上必要な空撮を行う際は、協力すること

## 2.ドローン利用の会場内基本ルール

### ●会場内の飛行に関するルール

- ・事前に工区統括施工者へ届出すること
- ・届出方法は、「3.ドローン利用に関する届出(万博ルール)」による
- ・昼間（日出から日没まで）に飛行させること(申請時間外の飛行を行わないこと)
- ・原則、割当敷地外の飛行を行わないこと(特に秘匿性の高い施設上空を飛行しないこと)
- ・飛行高度は150m以下とすること
- ・目視（直接肉眼による）範囲内で無人航空機とその周囲を常時監視して飛行させること
- ・安全飛行が担保されない場合など、不測の事態が発生した場合には即時に飛行を中止すること
- ・会場内はクレーン等が多数稼動することが予想されるため、接触には十分に注意すること
- ・飛行前および飛行中に他のドローンを確認した場合、他のドローンを飛行させる者と調整すること
- ・ドローン飛行に関して統括施工者の指示に従うこと
- ・その他、ドローンに関する各種ガイドライン等を遵守すること

### ●ドローンで撮影した写真や動画の利用ルールについて

- ・利用可能な撮影映像等は、割当敷地内のみに限定し 映り込み自体も可能な限り最小限に抑えること
- ・識別できる人の顔などプライバシーや肖像権侵害の可能性がある撮影映像や、割当敷地外その他施設の映り込み等に関して、出力の際は撮影映像にぼかしを入れるなどの画像処理を行うこと
- ・撮影映像等については届出した目的以外で利用しないこと
- ・撮影映像等は関係者のみでの利用に限定し、インターネット上の開示(SNS含む)は不可とする。  
なお、届出者の責任において情報漏洩対策を徹底すること

### 3.ドローン利用に関する届出(万博ルール)

---

#### ●ドローン利用に関する届出

- ・工区統括施工者へ届け出るまでに事前に法的な「飛行許可・承認申請」を行うこと
- ・飛行許可・承認申請完了後、「許可証の写し」および「ドローン飛行届」を飛行予定の7日前までに工区統括施工者へ提出すること
  - ※「ドローン飛行届」(万博書式)は別紙参照
- ・ドローン飛行届は、飛行予定日に合わせて都度提出すること
- ・各工区連絡調整協議体の会議体で飛行日程、撮影場所等を工区統括施工者及び工区内の施工者に周知すること

## 4.その他(参考情報)

---

### ●遵守すべき法令等について

- ・ 航空法/航空法施行規則
- ・ 無人航空機（ドローン・ラジコン機等）の飛行ルール  
[https://www.mlit.go.jp/koku/koku\\_tk10\\_000003.html](https://www.mlit.go.jp/koku/koku_tk10_000003.html)
- ・ 無人航空機（ドローン、ラジコン機等）の 安全な飛行のためのガイドライン  
<https://www.mlit.go.jp/common/001303818.pdf>
- ・ 無人航空機飛行マニュアル
- ・ 無人航空機の飛行に関する許可・承認の審査要領
- ・ 無人航空機の飛行日誌の取扱要領
- ・ 無人航空機の飛行計画の通報要領
- ・ 無人航空機分野 サイバーセキュリティガイドライン
- ・ その他、各種関係法令等